

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 632 2020年 6月号 1部60円 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正

求められる医療介護活動の継続のために職員一同奮闘してまいります

代々木病院への温かいご支援・お力添えに深く感謝申し上げます

新型コロナウイルスへの対応が続く中、この間、患者さんや地域の方々、取引先事業所などから代々木病院へのマスク提供など、多くの皆さまよりご支援を頂いております。代々木病院職員一同大きな励ましいただき、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス対応は今後も続きますが、求められる医療介護活動を最大限継続していくために職員一同奮闘してまいります。これからも温かいご支援をよろしくお願ひ申し上げます。一部ご紹介いたします。

取引先事業所より「応援ドリンク」提供

栄養補助食品の取引先から「医療現場で頑張っている方たちを応援した

患者さんより職員を励ます食品の差し入れ マスク200枚提供

患者さんから、「医療 ことでプリンやカフェオレ 機関を励ましたい」との



取引先事業所から頂いた経口補水液



プリンやカフェオレなど食品の差し入れ



患者さんから頂いたマスクと激励のお手紙



手作りマスク作製中のデイケアメンバー



動画ラストの全員合唱部分。「苦難のりこえ、すすめ明日へ」

精神科デイケアメンバーが職員を励ます手作りのマスクを作製

マスク不足が顕著だった4月に、精神科デイケアのメンバーさんが、コロナウイルス対応に奮闘する代々木病院と職員に感謝を込めて手作りマスクを製作してくれました。「ちょっと外出するときや念のためのもう一枚ご家族へのプレゼントなどに、よかったら使ってください」というこ

励みになりました。また他の患者さんから10枚入りのマスク20袋が病院に寄贈されました。戴いたお手紙には「コロナウイルスに支配され、冷静さが失われたように感じる中で、医療

ました。また他の患者さんから10枚入りのマスク20袋が病院に寄贈されました。戴いたお手紙には「コロナウイルスに支配され、冷静さが失われたように感じる中で、医療

「苦難のりこえ、すすめ明日へ」精神科デイケアメンバーと職員で「民衆の歌」動画を製作

精神科デイケアのメンバーが「手作りマスク製作」とあわせて取り組んだのが「民衆の歌」の動画製作でした。普段はデイケア合唱団「ハートビートコーラス」の十八番である「民衆の歌」ですが、今はコロナ感染予防のため、一緒に歌うことが出来ません。そこで「民衆の歌」の動画製作を通じて、病院や職員への感謝の気持ちを伝えようという企画が持ち上がりました。もちろん一堂に会しての合唱はできませんので、一人一人の出演者が自主的に動画撮影して、それらを編集して製作していくというものでした。動画の出演者はデイケアメンバーのほか代々木病院職員も募りまし

「苦難のりこえ、すすめ明日へ」精神科デイケアメンバーと職員で「民衆の歌」動画を製作... 日本文化が大変な危機だ。政府の緊急事態宣言より1カ月以上前、2月26日のイベント自粛要請以来、多くの文化活動が中止を余儀なくされている。諸外国は多くの文化支援策を打ち出しているが、日本の文化支援は給付が遅れている上にかなり手薄だ。こうした苦境の中、文化関係者は支援を求める様々な発信をしているが、某小説家は「作家みたくな職業は生きるか死ぬかの時代には必要ない。金は本当に必要な人に回せ！作家なんか一番後回しでいい」と自らの立場を否定する攻撃を行った。このような状況に、佐野真由子京大大学院教授は「日本において文化は生活の付加的なものにすぎないと見なされているという現実があらわになった。今後『命と芝居』のどちらが大事かと迫られれば文化は後退し続ける。文化は人間存在を基礎から支えるものという見方への転換を促したい」と話す。ドイツで大規模な文化支援を打ち出した際にモニカ・グリュッタース文化相は発言しました。「アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ。とくに今は」と。(の

萱の千駄

日本文化が大変な危機だ。政府の緊急事態宣言より1カ月以上前、2月26日